

講義名	労働経済論			授業形態	
担当教員	丸山 亜希子	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

近年、日本の労働市場は大きく変化しているといえます。パートタイマーや派遣労働者等の非正規社員が増加し、働く人の約3分の1が非正規雇用の形態で働いています。一方で、正規社員については成果主義が一部導入されるようになり、年功序列賃金や終身雇用制度を前提とした日本的雇用慣行は崩れつつあると言われています。また、少子高齢化の進展、IT技術の急速な発達など、労働市場を取り巻く環境も大きく変化し、労働市場はそれらの影響も受けています。例えば、少子高齢化により公的年金の支給年齢は引き上げられ、結果、高齢者の就業が進んでいます。IT技術の急速な進歩からは、即戦力となるスキルを持った労働者が求められるようになり、今後、中途採用数は増えていくだろうと言われています。このような環境の現代は、働くことに不安を多く伴う時代とも言えるでしょう。人々が働きがい高め、暮らしの安定を得るためには、労働市場がどのように機能しているかをよく理解する必要があります。この講義では、労働市場の機能を、経済学的視点から分析していきます。これらの知識は、労働にかかわる問題を考察する上で非常に役立ちます。

到達目標

経済学の基礎知識を労働市場に適用して、労働市場の現状を的確に把握できるようになる。例えば、終身雇用制度はメリットがある一方でデメリットもある。こうした各制度のメリット、デメリットをしっかりと理解することで、労働市場の変化を理解できるようになる。
経済学視点で適切な政策を検討することができる。現状を正しく把握できるようになれば、それを踏まえてどのような政策が有効かも検討できるようになる。

提出課題

普段（平常時）の課題と、期末に定期試験を実施します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

普段（平常時）の課題については、次の授業回で解答・解説を行う予定です。

評価の基準

普段の課題 30%
定期試験 70%
の割合で成績を評価します。

履修にあたっての注意・助言他

締切り厳守です。期限後の提出は未提出扱いとします。

教科書

.使用しない。

参考図書

.労働経済学入門.	太田 聡一、橋本 俊昭	有斐閣	1870	978-464116393
.労働経済学をつかむ.	大森義明、永瀬信子	有斐閣	2750	978-464117730
.労働経済.	清家薫・風神佐知子	東洋経済新報社	2420	978-449239654

その他

レジュメと課題等を配布します。レジュメには一部空欄を設けます。

授業計画

1. イントロダクションーこの授業で扱う内容の紹介
2. データでみる日本の労働市場
3. 賃金と雇用の決まり方(1)労働需要
4. 賃金と雇用の決まり方(2)労働供給
5. 賃金と雇用の決まり方(3)均衡
6. 賃金格差：なぜ人によって賃金は違うのか
7. 学びと訓練(1)ー学歴
8. 学びと訓練(2)ー訓練
9. 日本の雇用慣行
10. 内部労働市場とは
11. 人が仕事を辞める時
12. 離職と転職：労働市場の流動化
13. 失業
14. 失業者を働きやすくする
15. 最近の労働市場について

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・・・課された課題（宿題）に取り組み。（2時間/回）
復習・・・要点をまとめたノートを作成すること（2時間/回）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標・・・を達成することで、社会的にみて望ましい、個人の行動、企業の行動、政府の行動を考えることが可能となる。これにより、ディプロマ・ポリシーの「人間、社会に関するこれまでの学問成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題について、幅広い視点から考察し課題を提案することができるようになる」に到達する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

アンケートや課題提出にクリッカー（レスポンスまたはキャンバスクロス）を使用する。

実務経験の有無及び活用

備考

履修者が多い場合、座席を指定します。配慮を希望する場合は教務部に直接ご相談ください（証明書等が必要になります）。